

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500216		
法人名	合同会社 明和会MCS		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	長崎県大村市上諏訪町1231-1		
自己評価作成日	令和 2年 11月 10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上諏訪地区の住宅街の一角にあり、施設からは市内を見渡せる程、景観に恵まれている。医療機関が母体であるため、入居者の緊急時の対応を始め、週1回の訪問診療、管理栄養士による栄養指導等多岐にわたり病院からの支援を受けることが出来ており、入居者により安心・安全のサービス提供が出来る。
小規模で家庭的な生活環境の下、低下した認知機能をサポートしながら、入居者の自己決定を支援し、生活支援を中心としたケアを実践、家族のニーズを踏まえたサービス提供に努めている。
令和2年4月には、新規事業として、新しくグループホーム1ユニットが開設となる。地域に寄り添った事業所として、更なる活性化に努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは長崎自動車道大村インターチェンジから程近いアクセスに恵まれた場所にある。ホームの窓からは大村市内の街並みや遠くの山並みの景色を一望でき、入居者が季節の変化を感じることで気分をリフレッシュしたり、活力に繋がったりと入居者が思いおもいに過ごせる住環境を整えている。今年4月には隣接して新たにグループホームを開設し、ホーム間の職員が連携しながら地域行事へ参加するなど地域との関係を深めるよう取り組んでいる。職員の急な欠勤があった場合は各ユニット間で職員を補充するなど応援できる体制を整えることで職員が安心して職務に就くことができ、やる気を引き出す効果にも繋がっている。母体の医療機関と密に連携するとともにベテラン看護師による24時間対応の体制を整え、入居者や家族にとって安心できる看取り支援に努めている。職員は入居者や家族の安心・安全な日々の生活を継続できるよう支援に努めており、今後もその人らしい生活の実現へ向け更なる取り組みに期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 花みずきA棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	清潔で明るい環境、笑顔と優しさが溢れるスタッフ入居者のペースで楽しく過ごせる様に支援する、を理念とし、常に安心安全の生活環境が提供できる事をモットーに職員一丸となって業務を行っている。	ホームでは月1回の定例会において、入居者一人ひとりの支援状況について理念に沿った支援ができてきているのか話し合っている。全ての職員が全入居者の状態やペースを把握するよう努め、入居者に安心してもらい安全に生活できるよう理念を踏まえた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域との繋がりを取れていない。地域の公民館や、交流イベントなど、地域の開催も自粛しており、コロナ終息が見込めない状況の中、交流は、困難な状態である。	現在、コロナ禍により地域との交流は自粛している。以前は地域から行事参加の依頼があり、職員が参加して『どじょう掬い』を披露し場を盛り上げるなど、職員が得意なことやホームの特色を活かした地域交流を行っている。コロナ禍終息後は更なる地域との繋がりを継続していく姿勢である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、積極的な活動や繋がりは持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、4月から3回の運営推進会議は、書面での会議となった。10月、自粛が軽減された事もあり、半年ぶりに対面での会議を実施した。6名のご家族の参加があり、他関係者の出席で、15名での会議となった。大変有意義な会議となった。コロナ感染防止対策を取りながら、実施した。	コロナ禍により運営推進会議は書面での会議を開催していたが、10月は制限が一部緩和されたこともあり通常会議を開催した。会議には町内会長をはじめ市職員や6名の家族が参加し、ホームの現状報告やコロナ禍での入居者に関する議題など多方面から活発な意見交換ができており、入居者支援に繋がる有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症グループホーム連絡協議会への出席を通して、事業所の実情を報告し、意見を頂く事で、現場業務に生かすことが出来ている。	大村市長寿介護課職員とは運営推進会議を通じてホームの実情や取り組み状況などを伝え、運営に関する質問や相談を行うほか、コロナ禍での面会制限に対する家族の質問があった場合の対応の仕方を指導してもらうなど、市と連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の定期的な開催に伴い、職員間の情報共有とA棟B棟合同会議を利用し研修を実施している。職員全員が、「身体拘束をしない介護」に向けて、知識と情報を踏まえてサービスの質の向上に努めている。	ホームでは3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、当ホームと併設ホームを総括する看護師や管理者が講師役となって勉強会を開催している。退院後の入居者への対応において医療機関から身体拘束に該当する恐れがある行為の指示があったが、極力行為を行わずに支援する方法を話し合い支援に繋げている。身体拘束に該当する行為はケアプランに記載し、家族に説明と同意を得、支援内容の透明化に努めている。	身体拘束に該当する恐れがある行為について、職員が自覚がないまま行っていないかなどをすぐに振り返ることができるよう、身体拘束に該当する11項目や三原則、3つのロックについてのマニュアルを整備するとともに、職員がすぐに読める場所に設置し、身体拘束への正しい理解をより深められるよう今後の取り組みに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者事業所における「虐待とは」の理解を深める為、看護師を中心に勉強会を実施し、どういった事が虐待になるのか、又なり得るのかを理解し、業務中の防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員の理解が進んでいるかというと、十分ではない。管理者を始め、他の研修会と同等に、学ぶ時間が必要と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所が提供するサービス内容について、わかり易く説明を行い、利用者、ご家族の安心安全に繋がるよう丁寧な説明に心がけている。ご家族の不安、疑問等には、随時対応するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見等の受付は、常時受け入れ態勢がある事を契約時に伝えており、通常の面会、電話による状況説明時を利用し、意見を伺い、職員間で共有し、現場運営に生かしている。	ホームでは苦情受付窓口を明確にし、行政の苦情受付窓口についても重要事項説明書に明記して入居時に家族へ説明している。入居者や家族等から挙げた意見は記録に残して全職員で情報共有に努めている。10月に開催した運営推進会議には家族も参加し活発な意見交換ができており、その後の入居者支援や運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の定例会、各種委員会等で、話しやすい雰囲気(信頼関係作り)に努め、日頃より、職員への声掛けを小まめに行い、運営に向けての意見の収集に努め、チームで話し合いを持っている。	月1回の定例会で各職員からホームの環境整備や入居者の日々の支援など意見を聴取している。入居者の口腔ケアについては入居者本人の習慣を大事にした上で職員による口腔清潔保持ができるよう職員意見を取り入れるなど、入居者一人ひとりの必要な支援について最善の方法を話し合い、実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から、職員との信頼関係づくりに努め、働きやすい環境づくりをすることで、職員が前向きに勤めることが出来るよう、勤務表や労働時間の管理に努め、笑顔で利用者に対応できるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTについては、定例会を利用し、OFF-JTについては、外部研修案内を積極的に取り入れ自らが積極的に自己研鑽に取り組めるよう、風土作りに努めている。介護福祉士の資格を取得する職員が増加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会及び各駅停車への参加を常とし、管理者のみならず、職員が交替で出席できる環境づくりに努めている。その事が、事業所全体の質の向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時から、入居者の情報収集と、日々の状況把握を密に行い、ご自分らしく安心して生活できる様、入居者のニーズに敏感に対応し、信頼関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時での面談を丁寧、且つ信頼関係が作れるよう説明を慎重、わかり易く実施し、不安や要望、困りごとに寄り添い、利用者のより良い支援に繋がるよう、家族の意見を大切にしよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規サービスを導入する際は、入居者に必要な支援であるかを、ご家族と一緒に見極めご家族の理解の下、サービス導入するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、洗濯ものを畳んでいただいたり、テーブルを拭いていただいたり、生活上、必要な営みをお手伝いして頂き、共に生活している実感を得てもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主には、ご家族との面会時を利用し、利用者との時間をゆっくり過ごしてもらい、近況の過し方を伝え情報共有することを大切にしているが、コロナ禍により、一部制限付き面会で対応している為、ご家族の不安を軽減する為に、電話連絡等、こまめに対応するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍により、対応できていない。	現在、コロナ禍により馴染みの人や場との関係継続の支援は自粛している。ホームでは入居時に本人や家族から入居前の生活歴を聞き取り、入居した後は本人との会話の中で知り得た新しい情報を入居時の情報の記録に継ぎ足して記録に残している。本人から発信された情報を全職員で共有し、本人が大切にしてきた関係の継続に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合わない利用者様同士もおられ、食事をされる時や、レクリエーションをする際は席を配慮し、周囲との雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、前利用者からの問合せ、相談に対応している。亡くなられた場合は、お悔やみに伺う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の意向が聞きとれる場合は、しっかり聞き取り、伝達が不可能な方は、日頃の様子から本人のニーズを捉え、対応に取り組んでいる。	職員は入居者との日常的な会話の中で本人が何を望んでいるのかを把握し、記録に残している。自分で意思決定できる入居者には直接意向を聞き取り、入居者の思いをもとに支援の実施に繋げている。家族への意向確認については、現在コロナ禍により面会を制限しているため電話で聴取している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、本人の生活スタイル、状況について丁寧に聞き取りを行い、把握に努め、日々の生活に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、利用者の変化に敏感になり、個々の状況把握に努めている。又、定期的に身体機能の評価を実施している。(理学療法士)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各棟毎に、利用者のカンファレンスを開き、介護計画に変更が無いか検討し、必要に応じて、ケアの変更を本人、家族、計画作成者と話し合い、本人にとってより良い介護計画作りに努めている。	介護計画は3か月毎に見直し、日頃のモニタリングは入居者の担当職員が中心となって行っている。サービス担当者会議では母体医療機関の理学療法士やホームの看護師等が参加し、多職種からの専門的意見を介護計画の立案に反映している。各入居者の介護計画の短期目標をキッチンと事務室に掲げ、目標を意識した支援に繋がられるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、申し送りノートの記録を中心に、日々の観察を怠らず、変化や気づきを職員間で共有し、必要によっては、介護計画の見直しを行い、より良い支援に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活で発生した問題点や検討すべき点について、家族の意見を聞き、介護計画に反映し、医療的な問題が発生した際は、主治医の意見に沿い必要なサービス導入に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域資源の活用が十分出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問診療、定期的な診察を受ける事により、かかりつけ医との連携がしっかりと取れており、適切な医療に繋がることが出来ている。	ホームの母体法人として医療機関があり、全入居者のかかりつけ医となっている。3名の医師が各入居者のかかりつけ医であり、2週間に1回または月1回訪問診療を受けることができる。歯科については月2回、皮膚科に関しては依頼に応じて訪問診療で対応している。その他の専門医療機関への受診は家族が同行しているが、家族の同行が難しい場合は介護タクシーを利用して職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職の日々の連携については、相互に声掛けし、情報共有に努め、医療行為が必要な場合は、看護師を通して主治医に伝達し、適切な対応が出来る仕組みがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の病状説明に同席し、利用者の状態把握に努め、入院中は、適宜に病室を訪れ、利用者、家族との情報共有、連携に努めている。又、事業所より、病院と情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期における家族の意向を聴取しており、のちにそのような事態になった場合は、看取りがある事の説明を行い、医療機関を交えた説明と、家族の意向の確認をしっかりと行っている。	ホームでは入居時に入居者本人及び家族へ看取り支援の説明と意向を聞き取り、同意を得ている。看取り期には再度家族の意向を確認し、医療的措置が必要でなければ24時間対応の看護師を中心とした手厚い看取り支援を行っている。調査当日にも入居者を看取り、エンゼルケアと最期の見送りを行った看護師から支援状況を確認することができた。医療連携の充実で職員の不安もなく、入居者を最期まで支援できる環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の緊急時に備えて、どのような対応が必要なのか、緊急連絡網の整備は勿論の事、夜勤帯に起こった場合の対応、応急処置等について、定例会を使って小まめな研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を実施し、内1回は、消防署指導の下、防火責任者の進行に沿い、火元の発生場所を変更する事で多種の対応、避難経路の確保の仕方を訓練する予定ではあったが、コロナ禍により、4月から計画策定に終わっている。11月自主訓練をやる予定。	ホームでは年2回避難訓練を実施している。コロナ禍により今年度は実施のタイミングが取れなかったが、隣接する系列ホームと合同の自主避難訓練を11月27日に実施した。次回の避難訓練の際に活かせるよう自主訓練における反省点や気づきを記録に残している。	今後、例えば昼間想定避難訓練時には日々の役割分担(勤務シフトによる役割分担など)を明確にし、夜間想定訓練に関しては各ユニット及び隣接する系列ホームの夜勤者の連携がスムーズに行えるよう、行動手順が分かるフローチャート式などの簡略化したマニュアルを作成し目に付く場所に備えるなど、職員が常に防災への意識付けができるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションをより多くとるように努めている。入浴、食事、排泄時は特に、利用者個人の尊厳を守り、プライバシーや誇りが損なわれない様、最善の対応が出来るよう、利用者の状況を十分に把握し、声掛けと配慮を行いながら対応している。	職員は入居者の居室をその方の家であると捉え、プライベートな空間としての心得を持つよう努めている。また、入居者が安心・安全でゆっくりと寛いで過ごせるよう入室の際にはノックし声を掛けている。入居者の状況を把握し、その場に応じた適切な言葉掛けや会話ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情に中止し、希望や訴えに耳を傾け、個々の思いをしっかり受け取れるよう働きかけを行い、職員からの安易な提案を避け、利用者自らが決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調により、入居者の希望や思いが変わる事もある。介護する際は、焦らずゆっくりと利用者の希望に耳を傾け、拒否がある場合は、強要せず、利用者本人が気持ち良く過ごして頂ける事を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪希望者には、2カ月に1回、化粧などの希望があれば応えている。服の選択については、本人が望むものが着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	4月から、食事業者が変わり、メニューが増えた。高齢化により、配膳や片付けが出来ることが、減少したが、お手伝いをお願いしている。イベント食やおやつ作りの際は、テーブルでの準備を手伝ってもらっている。	食材は宅配業者へ依頼し、刻み食やミキサー食など入居者の状態に応じた食事形態で提供している。クリスマスや誕生会、敬老会などの行事の際には行事食を提供しており、数種類あるメニューの中から入居者の好みのものを選んでもらうなど、食事が楽しみとなるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分補給に関しては、毎回細かな状況把握を行い、体調管理に繋げている。管理栄養士による評価を受け、栄養摂取に力を入れている利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を活かし、毎食後の口腔ケアに力を入れ、利用者の能力を削がない支援を行っている。歯科衛生士による口腔ケアを取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の能力を大切に、出来るだけ自分で排泄が出来るよう、時間誘導したり、排泄時の後処理等、過度の介助にならない様、対応している。	排泄が自立した入居者には自分でトイレに行ってもらい、声掛けや誘導が必要な入居者についてはその人の排泄パターンに応じた個別の声掛けや誘導を行うなど、過介助にならない範囲で対応し、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体調管理を怠らず、利用者の変化に気づき個々に合わせたプランで柔軟に対応している。腸の活発を促すようなりハビリ体操の取入れなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前は、個々の体調把握を行い適切な入浴介助に努めている。本人の不調により入浴拒否がある場合は、清拭に切り替えたり入浴を控えたり柔軟に対応している。	ホームでは週3回入浴日を設け、順番や湯温のこだわりがある入居者には柔軟に対応している。入浴の拒否や体調不良等がある入居者には清拭に切り替えるなど、常に入居者の身体の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の1日の安楽な過ごし方を把握し、午睡や入眠時間は、利用者本人の希望を優先し、柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、処方状況の把握と、薬の目的副作用、用法について十分な理解のもとに対応する事を心がけている。服薬の変更、変更後の観察など、チェック票を作成し、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により、面会制限の中、対応せざるを得ない状況が続いている。気分転換として、園庭での食事やおやつ、体操などに取り組み、事業所内での楽しみを増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、対応できていない。	コロナ禍のため、現在外出支援は自粛している。ホームの広い庭は専門業者に依頼して整備しており、春は芝桜・花みずき・花しょうぶが咲き誇り季節の花見ができるほか、ホーム周辺を散歩することで入居者のストレスの解消に繋げ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、事業所内での金銭管理は行っていない。利用者は、能力、状況的にお金を持てる環境に無いが、外出の際、ご家族と買い物を楽しまれたり、希望の物の購入依頼には、ご家族の許可を得て、対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望があれば、積極的に対応している。又、家族からの電話にも、本人へ取り次ぎ、家族との連絡が取り易い環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや廊下を利用して、利用者の作品、職員の手作り等、四季を感じられる環境づくりに勤めている。利用者の居場所については、仲間意識を大切に席の配置を工夫し、利用者本人が1番落ちつける場所作りに努めている。	ホームフロアは定期的に掃除機や水拭きを行い清潔を保っており、居室の対面通しの窓を開け、効率よく換気を行っている。職員は毎月季節に応じた作品を入居者とともに作成しフロアや廊下に飾り付け、入居者に季節を感じてもらえるよう取り組んでいる。席の配置については入居者同士の関係性を配慮した工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの時間の過ごし方を工夫し、気の合った利用者同士が出来るだけ会話が弾むよう支援している。個々の特徴を把握し、利用者全員が過ごしやすい環境づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者本人が過ごしやすいよう、家族の協力を得て居心地の良い空間作りをしてもらっている。職員は、利用者の居室にあるものを大事に扱い、勝手に移動、処分したり、介護者の判断で物を置いたりしない様、努めている。	居室の清掃は入居者の担当職員が中心となって行っている。室内には以前から馴染み親しんでいた寝具や家具等を持ち込んだり、入居者が作成した絵を飾ったりするなど本人本位の居室づくりができており、これまでの暮らしの継続に繋がっている。居室の日当たりの調節はブラインドで調整するほか、夏場に日当たりの強い居室の外側にはアルミシートを用いて直射日光を遮光している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居住スペースを、本人の生活能力に合わせ、十分に活用できる様、利用者の把握を適切に行い、その時々利用者に合わせて、安全な生活空間作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 花みずきB棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	清潔で明るい環境、笑顔と優しさが溢れるスタッフ入居者のペースで楽しく過ごせる様に支援する、を理念とし、常に安心安全の生活環境が提供できる事をモットーに職員一丸となって業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域との繋がりを取れていない。地域の公民館や、交流イベントなど、地域の開催も自粛しており、コロナ終息が見込めない状況の中、交流は、困難な状態である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、積極的な活動や繋がりは持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、4月から3回の運営推進会議は、書面での会議となった。10月、自粛が軽減された事もあり、半年ぶりに対面での会議を実施した。6名のご家族の参加があり、他関係者の出席で、15名での会議となった。大変有意義な会議となった。コロナ感染防止対策を取りながら、実施した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症グループホーム連絡協議会への出席を通して、事業所の実情を報告し、意見を頂く事で、現場業務に生かすことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の定期的な開催に伴い、職員間の情報共有とA棟B棟合同会議を利用し研修を実施している。職員全員が、「身体拘束をしない介護」に向けて、知識と情報を踏まえてサービスの質の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者事業所における「虐待とは」の理解を深める為、看護師を中心に勉強会を実施し、どのような事が虐待になるのか、又なり得るのかを理解し、業務中の防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員の理解が進んでいるかというと、十分ではない。管理者を始め、他の研修会と同等に、学ぶ時間が必要と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所が提供するサービス内容について、わかり易く説明を行い、利用者、ご家族の安心安全に繋がるよう丁寧な説明に心がけている。ご家族の不安、疑問等には、随時対応するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見等の受付は、常時受け入れ態勢がある事を契約時に伝えており、通常の面会、電話による状況説明時を利用し、意見を伺い、職員間で共有し、現場運営に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の定例会、各種委員会等で、話しやすい雰囲気(信頼関係作り)に努め、日頃より、職員への声掛けを小まめに行い、運営に向けての意見の収集に努め、チームで話し合いを持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から、職員との信頼関係づくりに努め、働きやすい環境づくりをすることで、職員が前向きに勤めることが出来るよう、勤務表や労働時間の管理に努め、笑顔で利用者に対応できるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTについては、定例会を利用し、OFF-JTについては、外部研修案内を積極的に取り入れ自らが積極的に自己研鑽に取り組めるよう、風土作りに努めている。介護福祉士の資格を取得する職員が増加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会及び各駅停車への参加を常とし、管理者のみならず、職員が交替で出席できる環境づくりに努めている。その事が、事業所全体の質の向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時から、入居者の情報収集と、日々の状況把握を密に行い、ご自分らしく安心して生活できる様、入居者のニーズに敏感に対応し、信頼関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時での面談を丁寧、且つ信頼関係が作れるよう説明を慎重、わかり易く実施し、不安や要望、困りごとに寄り添い、利用者のより良い支援に繋がるよう、家族の意見を大切にしよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規サービスを導入する際は、入居者に必要な支援であるかを、ご家族と一緒に見極めご家族の理解の下、サービス導入するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、洗濯ものを畳んでいただいたり、テーブルを拭いていただいたり、生活上、必要な営みをお手伝いして頂き、共に生活している実感を得てもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主には、ご家族との面会時を利用し、利用者との時間をゆっくり過ごしてもらい、近況の過し方を伝え情報共有することを大切にしているが、コロナ禍により、一部制限付き面会に対応している為、ご家族の不安を軽減する為に、電話連絡等、こまめに対応するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、対応できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気が合わない利用者様同士もおられ、食 事をされる時や、レクリエーションをする際は 席を配慮し、周囲との雰囲気づくりに努めて いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、前利用者からの問合せ、相談 に対応している。亡くなられた場合は、お悔や みに伺う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常生活の中で、本人の意向が聞きとれる 場合は、しっかり聞き取り、伝達が不可能な方 は、日頃の様子から本人のニーズを捉え、 対応に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	契約時、本人の生活スタイル、状況につい て丁寧に聞き取りを行い、把握に努め、日々の 生活に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、利用者の変化に敏感 になり、個々の状況把握に努めている。又、 定期的に身体機能の評価を実施している。 (理学療法士)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各棟毎に、利用者のカンファレンスを開き、介護計画に変更が無いか検討し、必要に応じて、ケアの変更を本人、家族、計画作成者と話し合い、本人にとってより良い介護計画作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、申し送りノートの記録を中心に、日々の観察を怠らず、変化や気づきを職員間で共有し、必要によっては、介護計画の見直しを行い、より良い支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活で発生した問題点や検討すべき点について、家族の意見を聞き、介護計画に反映し、医療的な問題が発生した際は、主治医の意見に沿い必要なサービス導入に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域資源の活用が十分出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問診療、定期的な診察を受ける事により、かかりつけ医との連携がしっかり取れており、適切な医療に繋げることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職の日々の連携については、相互に声掛けし、情報共有に努め、医療行為が必要な場合は、看護師を通して主治医に伝達し、適切な対応が出来る仕組みがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の病状説明に同席し、利用者の状態把握に努め、入院中は、適宜に病室を訪れ、利用者、家族との情報共有、連携に努めている。又、事業所より、病院と情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期における家族の意向を聴取しており、のちにそのような事態になった場合は、看取りがある事の説明を行い、医療機関を交えた説明と、家族の意向の確認をしっかりと行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の緊急時に備えて、どのような対応が必要なのか、緊急連絡網の整備は勿論の事、夜勤帯に起こった場合の対応、応急処置等について、定例会を使って小まめな研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を実施し、内1回は、消防署指導の下、防火責任者の進行に沿い、火元の発生場所を変更する事で多種の対応、避難経路の確保の仕方を訓練する予定ではあったが、コロナ禍により、4月から計画策定に終わっている。11月自主訓練をやる予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションをより多くとるように努めている。入浴、食事、排泄時は特に、利用者個人の尊厳を守り、プライバシーや誇りが損なわれない様、最善の対応が出来るよう、利用者の状況を十分に把握し、声掛けと配慮を行いながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情に中止し、希望や訴えに耳を傾け、個々の思いをしっかりと受け取れるよう働きかけを行い、職員からの安易な提案を避け、利用者自らが決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調により、入居者の希望や思いが変わる事もある。介護する際は、焦らずゆっくりと利用者の希望に耳を傾け、拒否がある場合は、強要せず、利用者本人が気持ち良く過ごして頂ける事を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪希望者には、2カ月に1回、化粧などの希望があれば応えている。服の選択については、本人が望むものが着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	4月から、食事業者が変わり、メニューが増えた。高齢化により、配膳や片付けが出来の方が、減少したが、お手伝いをお願いしている。イベント食やおやつ作りの際は、テーブルでの準備を手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分補給に関しては、毎回細かな状況把握を行い、体調管理に繋げている。管理栄養士による評価を受け、栄養摂取に力を入れている利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を活かし、毎食後の口腔ケアに力を入れ、利用者の能力を削がない支援を行っている。歯科衛生士による口腔ケアを取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の能力を大切に、出来るだけ自分で排泄が出来るよう、時間誘導したり、排泄時の後処理等、過度の介助にならない様、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体調管理を怠らず、利用者の変化に気づき個々に合わせたプランで柔軟に対応している。腸の活発を促すようなリハビリ体操の取入れなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、個々の体調把握を行い適切な入浴介助に努めている。本人の不調により入浴拒否がある場合は、清拭に切り替えたり入浴を控えたり柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の1日の安楽な過ごし方を把握し、午睡や入眠時間は、利用者本人の希望を優先し、柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、処方状況の把握と、薬の目的副作用、用法について十分な理解のもとに対応する事を心がけている。服薬の変更、変更後の観察など、チェック票を作成し、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により、面会制限の中、対応せざるを得ない状況が続いている。気分転換として、園庭での食事やおやつ、体操などに取り組み、事業所内での楽しみを増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、対応できていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、事業所内での金銭管理は行っていない。利用者は、能力、状況的にお金を持てる環境に無いが、外出の際、ご家族と買い物を楽しまれたり、希望の物の購入依頼には、ご家族の許可を得て、対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望があれば、積極的に対応している。又、家族からの電話にも、本人へ取り次ぎ、家族との連絡が取り易い環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや廊下を利用して、利用者の作品、職員の手作り等、四季を感じられる環境づくりに勤めている。利用者の居場所については、仲間意識を大切に席の配置を工夫し、利用者本人が1番落ちつける場所作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの時間の過ごし方を工夫し、気の合った利用者同士が出来るだけ会話が弾むよう支援している。個々の特徴を把握し、利用者全員が過ごしやすい環境づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者本人が過ごしやすいよう、家族の協力を得て居心地の良い空間作りをしてもらっている。職員は、利用者の居室にあるものを大事に扱い、勝手に移動、処分したり、介護者の判断で物を置いたりしない様、努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居住スペースを、本人の生活能力に合わせ、十分に活用できる様、利用者の把握を適切に行い、その時々利用者に合わせ、安全な生活空間作りに努めている。		